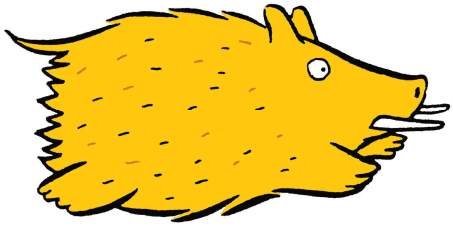
# ご近所トマソン隊かなめ

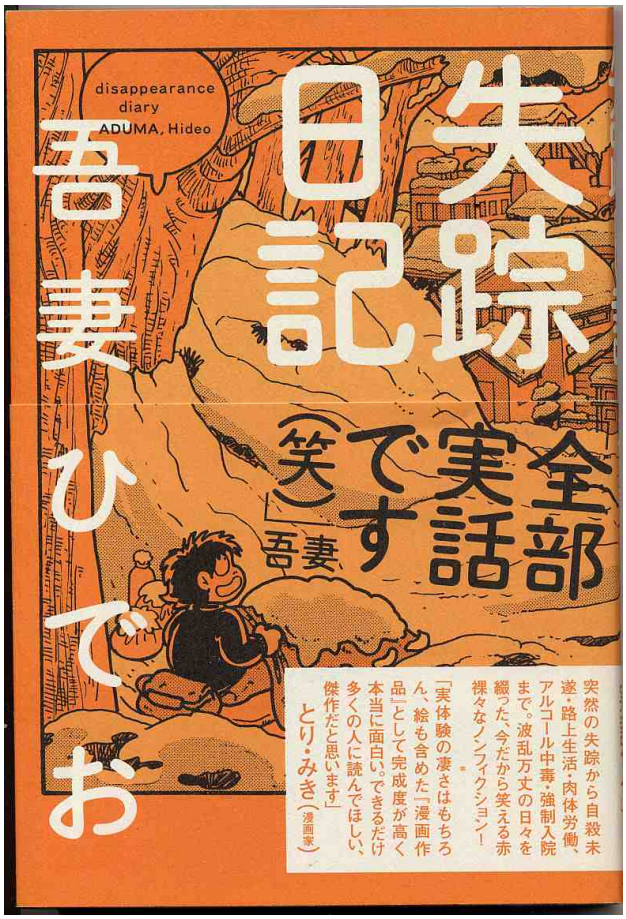


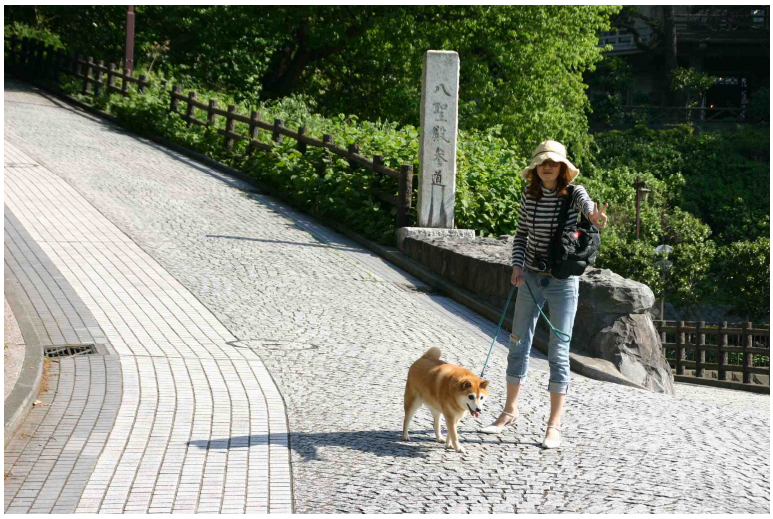
社宅・砲台編　　by うさお

今月のタツオトさんの記事の中で、吾妻ひでおの「失踪日記」について触れてありました。学生時代、漫画家の卵たちと新宿の喫茶店※1に集って、互いに同人誌を持ち寄っていた頃に、この人がぽちぽち雑誌に載るようになって来ました。手塚治虫の主催した「COM」※2や青林堂の「ガロ」※3の作風とはやや受け入れないものでした。

この頃から、この人、抜けていて善いなあと思っておりました。このように抜けるという作風（微妙な表現ですが、気負いが無いという感じかな）は、この人以外には倉田江美さん、新田辰雄さん、最近では西原理恵子さんです。話が逸れますが、西原理恵子さんは中々綺麗な人で作風とギャップがあるので嬉しくなります。

で、うさおが吾妻ひでおさんを好きなので、Caccoがうさおに買ってきてくれました。それがなんと手塚治虫賞を獲ってしまうなんて吃驚です。この人が途中アル中で漫画界から消えっていたのは知っていましたが、ホームレスの仲間になっていたのまでは知りませんでした。




横浜から色々な遺物が失われつつあります。歴史遺産的な建物ならともかく、特に住居などの建物はとても危うい状態です。横浜市の財政が乏しいこともあり、地域の開発に伴い歴史的建造物が朽ち果てたり、撤去されたりします。

今回の旧スタンダード石油の社員住宅や倉庫も同様な憂き目に会っています。来年にはこれらの建物は無くなっているかも知れません。

という記事が新聞に載っていました。保護団体も出来上がっていました。最近の人は何か行動が早いなあ。これも internet のお陰かも知れない。JR さんの色々な調査をしていると、60,70 歳代のクレーマーが手にパソコンから打ち出したデータを持ってきて、何だかんだと迫ってきます。いい加減なことを言うと、彼らは一旦家に帰り internet を検索し、色々探してみたがそんな法的記述は無いじゃないかと、更に厚い資料を持ってきます。あまりにも情報過多だよな。

さて、横浜の根岸というよりは三渓園の裏側に、八聖殿という横浜市の郷土資料館があります。日本における詩吟の全国大会の発祥の地という碑が建っています。本当に横浜は何々の発祥の地って表現が多いなあ。横浜の地理があまり良く判らない人のために、地図を載せておきます。実はうさおも三渓園はよく行ったものの、八聖殿なんて知りませんでした。今回、初めて行きました。

今まではその名前から結婚式場かなんかだと思っていました。

この八聖殿の脇にあたる横浜の海を見下ろす高台に、旧スタンダード石油の社宅がありました。これが今回のテーマです。

ちなみに八聖殿とは八人の聖人を祭ったことに由来するもので、東洋西洋の８聖人（キリスト、ソクラテス、孔子、釈迦、聖徳太子、弘法大師、親鸞、日蓮）を表しているのだそうです。あまり脈絡は無いなあ。どういう基準があったのか。

八聖殿は、法隆寺の夢殿を模したもので三層楼八角形の建物です。熊本出身の逓信・内務大臣を歴任した安達謙蔵（1864～1948 年）が建立し、昭和８年に完成したとのこと。この人のこともあまり知らないね。場所も判り難い所にあり横浜市民のうち、何人が訪れるのでしょう。

三渓園は年間何万人と訪れるのでしょうけれどね。

さて、昭和 12 年に八聖殿は横浜市に寄贈されました。建物の一帯は本牧臨海公園（三渓園が有名）として整備されました。昭和 48 年には「横浜市八聖殿郷土資料館」としてリニューアルされ、郷土歴史資料館となりましたが、本牧、根岸の写真や農具や漁具が展示されているだけですので、ものすごく地味です。

話が少し飛んじゃいましたが、この大変眺めの良いところに旧スタンダード石油の社員寮が建っていました。今はほんの一棟だけがバリケードの中にぽつねんとしています。この建物がなぜ注目されているかというと、フランク・ロイド・ライトの弟子だった、アントニン・レーモンドが設計したものだからです。うさおの卒論の指導教授は、このレーモンドと共に群馬音楽センターの音響設計を行っていました。専門は能舞台でしたが・・・。その所為か、レーモンドという設計家には興味を持っていました。

アントニン・レーモンド（1888 -1975）は、チェコ人の建築家で、戦前から戦後にかけて日本で数々の実績を残し、多くの後進を育てたことから「日本近代建築の父」と呼ばれています。建築物は近現代建築史の上で価値が高く、県内でも藤沢市内に建設された「グリーンハウス」（旧藤沢カントリー倶楽部クラブハウス）は、所有者の県と住民らが協力して保存と有効活用が図られています。

さて旧スタンダード石油社員寮はアントニン･レーモンドの再来日後の設計です。特に景観に配慮し、高低差のある地形や自生する木々を巧みに設計に取り入れ、地所と一体となった建築を完成させたとして有名です。銘版では白石建設が施工しています。そして、アントニン・レーモンドと共に仕事を出来たことを、今も誇りにしています。

*本牧の４つの住宅は旧スタンダード石油の外国人社宅として、1949 年から 1950 年にかけて建てられ、平屋が 3 戸と小高い丘の上方に二階建て 1 戸でそれぞれが 110 坪（363 平方メートル）以上あった。（うち平屋 2 戸はすでに失われている）*

*コンクリートの打放しの躯体に立板張り、大型の木製ハイサッシュがはめ込まれたモダニズム感溢れるデザインで、50 年代初頭のアメリカン・ライフスタイルを今に伝える、生活文化史的観点からみても重要な建築物である。*

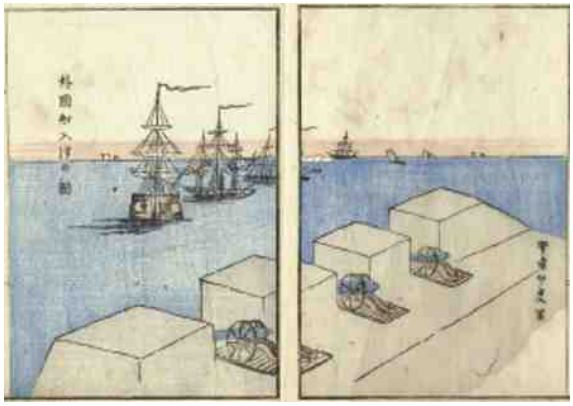
*また、レーモンドの代表作「リーダーズ・ダイジェスト東京支社」と*

*ほぼ同時期に建てられており、特に「芯外し」とよばれるレーモンド独特の手法が用いられていることや、当時の日本での最高水準であったコンクリート打ちの工法（日本で初めてコンクリートの振動打込機を使用して建てられた建物と推測されている）など、建築史的にみても価値の高いものである。*（旧本牧スタンダード石油社宅とその景観を救う会より）

この地に行ってみるとリクルートコスモスによって、開発が始まっており、新聞の横浜版等では「終戦後に米軍に接収された横浜・本牧を象徴する一九五〇年代のアメリカンスタイルの邸宅として、ほぼ完全な形で残されている「旧スタンダード石油社宅」が、取り壊される可能性が出てきた。現在の所有者で不動産販売・仲介のリクルートコスモス（東京都港区）が分譲住宅を建設するためだ。八日開始予定だった解体計画は、横浜市教育委員会が同社に協議を申し入れたことなどにより、いったん「未定」となったものの、保存を望む人たちから「協議の行方が心配」との声が高まっている。」そうです。

危ないなあ。本当にすぐに無くなってしまいそうだなあ。

初夏の時期でもあり鬱蒼とした樹木が茂っており、はっきりとその全容が見れなかったのが残念だったね。今でもレーモンド設計事務所というのがありますが、その流れを汲む設計事務所なのだそうです。なんかすごくノスタルジックで善いですよね。



さて実はこの下の記事なんですが、大変気になることが書いてありました。

「安政六年（一八五九）の横浜開港後、開港場周辺地域には開港場を維持するためのさまざまな施設が置かれた。そうした施設のひとつに現在の神奈川区の海岸部に築造された神奈川台場がある。台場とは砲台のことで、西洋では国際港に砲台が置かれることが一般的であり、砲台は港を防衛するとともに、港にやって来る諸外国の外交団などとの儀礼交換の祝砲の発射地として利用された。そのため、幕府は開港場を現在の中区に置くとともに、対岸に台場を築造することになった。

実際に台場を築造したのは愛媛県松山市に城を持っていた松山藩で、台場は開港の翌年の万延元年に完成した。台場が廃止されたのは外国人居留地が撤廃された明治三二年（一八九九）のことで、この間、台場は祝砲発射という外交儀礼をおこなう重要な施設として活用された。また、台場は観光地としても有名になり、多くの人びとが巨大な石組みに驚嘆の声をあげた。

残念ながら、台場は明治時代末年から周辺地域の埋め立てが進んだため、現在では石組みの一部分が残されているにすぎない。しかし、平成十四（二〇〇二）年に横浜市教育委員会が台場跡地の試掘調査を実施し、土中にも築造当時の石組みが残されていることが確認された。

横浜開港資料館・調査研究員　西川武臣」

えっ、発見されたの。今まで新たな発見は無いって言われていたのに。横浜市のタウンニュースを見てみました。ああ、ありましたねえ。この前のときは気が付かなかったので、見逃しちゃいました。

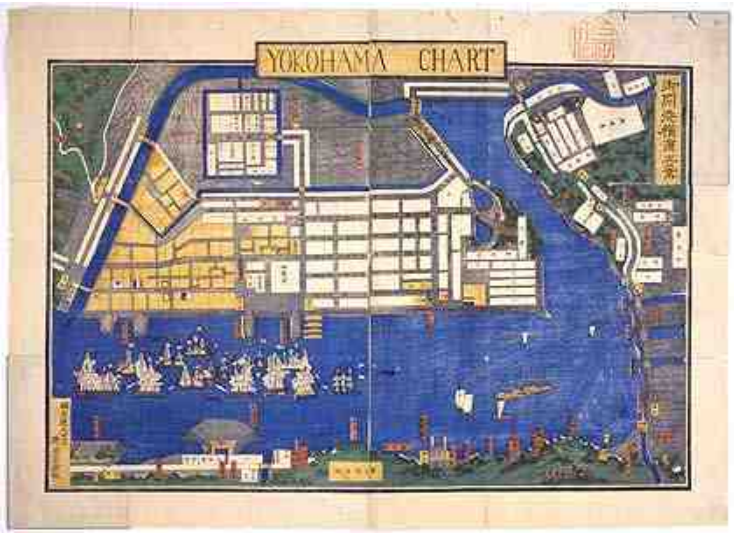
**神奈川お台場 発掘調査 「ほぼ完全な状態で埋蔵」可能性高まる　「西取渡り道」の橋台部の石積みを発見**

幕末の横浜開港当時に東海道神奈川宿の臨海部に築造され、現在は地中に眠る巨大な砲台遺構『神奈川お台場』で、新たに「西取渡(とりわた)り道」の橋台部の石積みが見つかった。これまで確認されてきた石垣などは島部に集中していたが、今回は、島部への連絡道路「取渡り道」からの発見だ。発掘調査を行った『(社)神奈川地域活性化推進協会』では「島部以外もほぼ完全な状態のまま埋蔵されている可能性が高まった」とし、「保存･活用への大きな一歩」と位置づけて、今後、関係機関へ方策の検討などを働きかけていく。

**地中に眠る開港の歴史　保存･活用に大きな一歩**

調査は区内神奈川 1 丁目の神奈川台場公園内で 2 月下旬、関東学院大学の鈴木伸治助教授の協力の下、同協会の調査･研究委員会（内藤宗一委員長）が実施した。過去の調査で不明瞭だった 2 本の連絡道路の内、唯一橋があった「西取渡り道」の橋台部の石積みが健全な状態で現存していることが確認された。

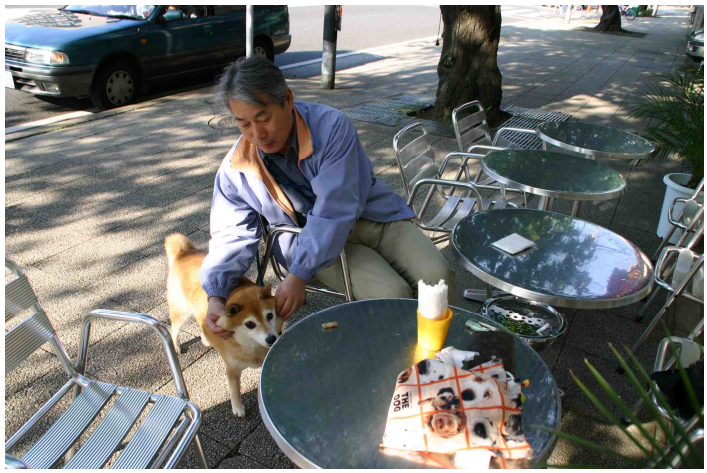
同協会専務理事の野渡圭一さんは「他の未確認部分もほぼ同じ状態であることが予想されるため、今回の発見は非常に意義が大きい。残る東取渡り道が確認できれば、ほぼ完全な状態で残っていると言える」と話す。同協会は台場の保存を目指す市民団体を前身に平成 16 年に発足し、調査などを続けている。台場の大部分は現在、JR貨物･東高島駅の下に埋没しており、野渡さんは「開発と保存の両立やまちづくりへの活用を、行政やJR貨物に働きかけていきたい」としている。

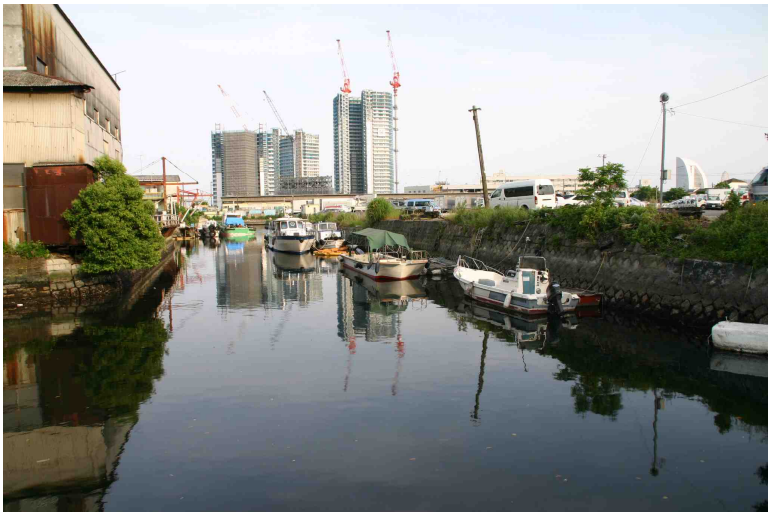


もう一度、行ってみなくては。

この地図だけを頼りに行って見ました。

神奈川砲台の全容はこの前に述べたとおりですので、それは置くにしても開港資料館に保存されている江戸から明治にかけての地図には、砲台の敷地の形状が異なって書かれています。この砲台は、関東大震災やら大東亜戦争などにより、海が埋め立てられ人家が建ちして、今ではその陣容を見ることも出来ません。この西取渡り道の石積が見えた場所を探しに行きましたよ。トマソン隊は。





この前の碑が建っていた所は海との境の護岸雍壁が見えていたものでした。今度の場所は其処に近いところなので、すぐに探せるだろうと嵩を括っていましたが、中々難しいところだったというのが結論です。

（すいません。そんなに難しくなかったです。うさおが発見したい所をただ単に堂々巡りをしていたのと、こんな感じの所だと勝手に思い込んだのが原因です。）

今でも周りは運河に囲まれているところで、出島に樹が茂っている様は、なんだか横浜のようではなく、呉とかの広島のようです。

（あっ、また思い込みです。）

明治維新のときも多分こんな風だったのでしょう。

この神奈川砲台はその後、国鉄の手に渡り貨物線の基地として変貌していったことは知られています。高島貨物線がそれで神奈川臨海線に繋がり本牧まで延びていました。東のほうは鶴見臨港線、武蔵野線を経て、常磐線の「いわき」駅のほうまで延びています。

散々探し回ってみると、漸く貨物線の「東高島駅」が見えてきました。駅入り口の前に

は、おおっ、「鉄チャン」だったら泣いて喜ぶ廃線跡が・・・。

そして、Cacco の勧めもあり、この「東高島駅」の中に入って調査することにしました。

入るときは堂々と、あたかも職員さんが休日出勤で来たんだぞって感じで、やや横柄な態度で侵入します。

後ろの超高層はみなとみらいの街並みです。

そうすると色々なものが見えてきます。む、む、む、ここにも廃線跡が・・・。って廃線跡を調べに来たんじゃあないぞ。

ここは川に渡る鉄橋部分だけが取り残されています。

そしてここに煉瓦造りの出島の護岸です。明治の時代の遺構かも知れないなあ。

死体発見場所のような台場公園

中を駆けずり回ること暫し。結局、碑が残っているほうの出口に小さな公園を見つけました。

ここのロープで地取りされている所が、ご近所の人から聞いたところによると当該の箇所らしく、「なんか石積みが出てきたけど、また埋めたよ！」とのこと。

勝手に埋めるな～。

濱町神社

※１　マンガ喫茶

今のように 24 時間制で漫画本を読ませると言う喫茶店ではなく、店の中の壁に漫画家の原画を貼っており、漫画家の卵が集まってわいわい騒いでいた。新宿の「コボタン」がとりわけ有名で、手塚治虫、石森章太郎、永島慎二、聖悠紀などが特集？されていた。うさおも新宿に下宿していた漫画家のアシさんの友人とよく行きました。阿佐ヶ谷には「ぽえむ」がありました。健ちゃんの読書リストの中にも少し触れられてるよ。

※２　ＣＯＭ

手塚治虫が起こした漫画商業誌。新人の発掘に精力を注いだが、虫プロの経営破綻で消えていった。青柳裕介、長谷川法世、宮谷一彦、やまだ紫、岡田史子らがいた。

※３　ガロ

白土三平を筆頭にＣＯＭが洋風な作風とすると、和風の作風の作家が多く集まった。つげ義春、林静一、池上遼一、永島慎二、内田春菊、蛭子能収、水木しげるなど結構、個性派揃いだ。